

コウノトリ



毎週月曜日更新

# カタカタ通信

第212号

「こも巻きをはずしました！」

2026年1月19日



池の水も凍ってしまう寒い日が続いていますが、そんな中でも冬ごもりをして冬を越す生きものもいます。お正月イベントで行った「こも巻きをはずそう」では、そんな虫たちを観察しました。

10月に天空の里裏手の木に巻いたこもを巻いたのはクヌギとエゴノキ “こも（ワラをシート状に編んだもの）”。虫たちが、冬を越すために集まつてもらえれば…と設置しました。

秋の間は、日中様子を見に行くと虫がとまっていることもありましたが、寒くなってからはほとんど見られなくなりました。外側からは中の様子は見られません。はじめてのイベントだったので（中には虫たちが集まってくれているはず…、何もいなかつたらどうしようかな…）と飼育係たちもそわそわしながら当日を迎えました。



秋に見られたクサカゲロウ（左）とマルカメムシ（右）

いざ、こもを外してみると…、「あつテントウムシ！」の第一声から「ここも！」「こっちはクモだ！」「これはなに？」と興味津々の観察タイムが始まりました！

中には1 cmを超える大きなテントウムシも！ベテラン飼育係も初めて生で見た！と大興奮でした。



こもをはずした木の皮を観察



大きなカメノコテントウ！

虫といえば夏のイメージかもしれません、静かに冬を越す虫たちもたくさんいます。冬ごもりの場所や過ごし方は生きものによってさまざまです。こも巻きを通して、そんな冬の暮らしを少しだけのぞかせてもらいました。何気なく見ている身近な環境にも、春を待っている生きものが潜んでいるかもしれませんね。



はずしたこもにも  
クモやカムムシが隠れています

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：寺内